

会議名	平成29年度第4回西尾市図書館協議会
日 時	平成30年3月15日（木）午後3時～午後4時40分
場 所	西尾市立図書館 会議室
出席者	尾崎会長、赤堀副会長、伊奈委員、山下委員、石原委員、鳥山委員、都築委員、
市係等出席者	岩瀬教育部長、今井図書館長、原田館長補佐、生田主任主査
傍聴者	なし
協議会の中で出されたことは以下のとおり。 1 あいさつ 尾崎会長 2 議題 （1）平成29年度事業実績について 原田館長補佐より、読書活動の普及、施設・サービスの充実について、図書館利用状況、行事实績を説明。（資料1-1、1-2、1-3） 質問 選書会議について、文学賞を取ったような作品はいつも利用が満タンだと思うが、（蔵書にする）冊数をどの程度にするとよいのか。また、新聞などで、文庫が売れなくなるから図書館に置かないでほしい、一時的には流行るが一年後にはもう読む人がいなくなるのではと思う。イングリッドカズオの作品も、もう借りる人は減ってきているのではないかと思う。選書会議の中で、選書だけではなく、流行りの本の冊数も検討しているのか。 → 冊数についてですが、同じ本の購入は、本館4冊、各分館で3冊の合計7冊としている。本館4冊というのは、当初は流行るが、そのあと次第に利用が少なくなってくるが書名としての知名が知れ渡っている本なので、寺津・福地・米津配本所の3か所に置くということにしている。なお、これ以上の冊数があるものの中にはあるが、それは利用者が寄贈でくださった本で、追加で登録し所蔵とさせていただいている。ベストセラー本の複本は、基本的には7冊としている。 質問 分館の利用者が増えていることはうれしいことである。一日当たりの入館者を見ると分館は増えている。何か特別なことをしているのか。 → 一色が9月から休館していて、一色配本所も開設したがそこは本が少ないため、本館、吉良、寺津等周辺の施設に流れているためだと思う。 意見 ブックスタートボランティアが今年10人も増えた。養成講座を開催したためだと思う。定期的に開催してもらおうとボランティアが増えると思う。 また、図書館は宣伝が下手である。ボランティアをしたいと思っている人はいると思うので、広報や館内だけでなく、そういう人たちが集まる場所にもポスターを張ると思う。 もうひとつ、大活字本とあるが、これも（宣伝が）地味である。2階にあるが、どこにあるのかわからない。もっと宣伝すべきである。せつかくあれだけあるのだから、PRしたらいいと思う。ほかの図書館は、入り口にあって、なにこれ、と目を引く。 質問 施設管理のところで、安全な施設の管理に努めたとあり、監視カメラの有効活用とあるが、館内に何台、どの位置にあるのか、どのように監視しているのか、録画していて何かあったときにフィードバックしているのかお聞きしたい。 → 監視カメラについては、利用者の使う部屋には1台は設置している。角度の調整ができ、録画機能もある。各カウンターのパソコンでモニターが見えるようになっているので、不審者が玄関から入ってきた場合には、2階等に情報を伝えたりすることはでき	

る。

意見 ニーズに対してのシーズというのがある。これを持った場合、シーズに対しての課題が出てきて、課題を工夫していった結果を見るということである。図書館は結果が一つか二つしか見えない。資料1―2の数値でしか見えない。貸出冊数が上がってきている。これはおそらくこのデータを見ていると、インターネットの普及が来ていて、入館者数が減っているように見える。時代の流れだが、ハード面では結果が出てくるが、サービス（市民の方に仕える）というのが結果に出てこない。市民サービスに対してどういう風にアプローチしていくのか、評価していくのかというのが図書館を良くしていくのではと思う。ハード面では数値が出るのでわかりやすいが、サービス面は把握しにくいところがある。今後、検討してみてもいいと思う。

→ 図書館の利用者の方が限定的になってきているというのがあり、行政との連携も含め、例えば男女共同参画など市のイベントと連携して企画展示を進めていたり、地域連携として、今回はスギ薬局と連携して講座を開催したりした。これがどれだけ結果に出てきているかということだが、何かいい方法があれば教えていただきたい。

意見 よくやるのはアンケート、それを継続してやるとか、イベントごとにやるとか。利用者の方から評価してもらうという手法は、できればいいのかな。ただそうすると図書館に負担がかかってくるので、何がよいのかということを検討されればと思う。ソフトの評価は難しい。サービス向上というのは難しい。

意見 測ることのできないものをどのようにして、皆さんそれぞれに色々改善しようという気持ちはあるが、貸出冊数が何冊とかという数も大事だが、質や中身からいくと、同じ人ばかりが借りるのもいいが、今まで本を読んだことのない人もあるご縁でここに来た、という改善も一つずつ取り組んでいかないといいけない。忙しい中で知恵を絞って、質の向上、次に活かせるようにしていったほしい。

昨年の図書館まつりで地元出身の方の講演会があり、私も聞きに来た。難しい内容かと思ったがとてもよかった。ただ、終了時間になっても、今から休憩と言われ、話は良かったがこれはちょっと長すぎた。こういったことも反省しながら、次年度やるときに活かしていかなければいけない。

事務局 先日、臨時職員の雇用のための面接をやったときに、応募してくださった方が、子どもの頃に図書館で出会った本がきっかけで、今僕はなりたいたいものに対して努力している、という話を聞いた。数字で見えないサービスが、そのところでは少しはできたのかなといった実感はあった。数字では見えてこないサービスというのが、本当は目指したいところはそこなのだが、なかなか評価が難しいというのは確かにある。そういった方は図書館に伝えてくださる機会もないので、どういうところを拾って、私たちが目指しているサービスを少しでも市民の方に伝えることができるのか、ということを職員全員で考えていきたい。

(2) 平成30年度運営計画について

今井館長より、基本方針と施策について説明。（資料2）

質問 一色学びの館のオープンは4月1日か。

→ はい。

質問 学びの館の入ったところに三浦太郎さんの絵が飾ってあり、4月1日に来ると聞いていたが、このチラシ（西尾っ子読書フェスティバルのチラシ）には4月21日と書いてあるが、どちらか。

→ 今聞いているところでは、4月1日にもいらっしゃるということを内々には聞いているが、まだ皆さんにオープンにするところまでは聞いていない。3月22日の議会が終わったと同時くらいに、包括で管理する3館の広報誌を折り込みチラシに入れてPRするとのこと。議会との日にちの兼ね合いがあり、周知が遅れているということと、3館でオープニングイベントを開催するのだが、図書館は原画展をやるということだが、一般の利用者がたくさん入ることが想定されるので、これ以外にオープニングイベントとして館内で何かをやるということは、西尾っ子読書フェスティバルも控えているので、それも含めて考えていきたいということだった。

質問 申し込みはできるのだね。

→ 西尾っ子読書フェスティバルに関しては、3月24日から本館で電話の受付をし、4月1日からは学びの館で受け付けるということにしている。

意見 テープカットをしたり、演奏をしたりということを聞いている。三浦太郎さんの原画も展示してあるのを見たので、着々と準備は進んでいる。

意見 「23日は読書の日」だが、ITの時代で、子どもは小学校に入るところから目が悪くなってしまう。23日は読書をするだけでなく、テレビやゲームを家の人も我慢するというのを全体でPRし、デジタルの中毒にならないようにしていくといい。読書の日だけでなく、セットとして、デジタルを控えていくという気持ちを市民全体に広めていき、「本のまち西尾」にしていってもらうのが希望である。

意見 以前、吉良中学校に勤めていた時、ノーテレビノーゲームデーというのが言われている時があった。その日はテレビもゲームもせず、家族で話をしたりする日ということで、学校全体で声をかけているということはある。今はそういったことはない。「23日は読書の日」ということも学校であまり宣伝をしていない。子どもたちも忙しくて本を読むという習慣がない子が多いと感じる。学校で何かやれたら、企画してやっていきたい。

(3) 西尾市立一色学びの館の運営について

原田館長補佐より一色地域文化広場業務計画書【概要版】をもとに説明。(資料3)

意見 つい数字に目が行ってしまうのだが、控えめの数字が出ている。三つの施設が一つに包括的に作られたにしては、目標値が5%しか上がっていない。なおかつ、スタートが今と同じであり、ちょっと謙虚すぎるのではないかな。同じ値がきていて5%増はないだろう。ほかの2館にも来るのだから、シナジーがあるはずなので、もっと強気でいってもよかったのでは。前回、中を見学させていただいたとき、特色がよかった。絵本というのが出されていて、ちゃんとそれが前面に出されているレイアウトになっていた。いいものを作られたので、きつともっと来ると思う。

質問 私も同じことを思った。利用者目標値というのが、利用者と入館者と違うのか。昨日今日あたり、中日新聞が大々的に取り上げていて、関心が高まっている。そういう中で、図書館の利用状況がまったく同じ数字である。たまたまある会合で、学びの館は三浦印刷がやるのか、儲かるのか、と聞かれて答えられなかった。私自身は指定管理でいろいろやって、ある程度のプラスを出すということをやってきたのだが、(今回は)PFIだから違う方式ではないか、けどわからない、とその場では答えた。そういうことはあるのか。

→ 学びの館も含め、この3館はMICが管理運営を行う。そこで、一般企業が入るわけなので、儲けというのがなければ成り立たないのだが、その前に一つ申し上げておかなければならないのが、業務を委託する、それは今まで職員を置いてやっていたのだが、民間に委託することによって、経費を圧縮したいというのがある。そうすると儲けというものは相反するものがあり、小さな経費でより良いサービスを行っていくということを求めていくことである。その中で業者も頑張ってくれるということになる。儲かるかどうかということは、指定管理料で、ある一定の経費を払っていくので、その中で利潤は一定のものが算入されている。それで、今回のものが成り立つ。業務を外注ということ、業務委託、民間委託というものは今までもあったが、今回それに加えて特筆すべきことは、建物の修繕をし、図書館はとても新しくなった。そういった経費も含めて業務発注するので、その部分で、我々は経費を小さくできるし、業者はそれをまとめて請け負うことができるので、その中である一定の利潤が確保される、ということが特徴的なところである。今までにもあった民間委託というものとベースでは同じだが、それを超えた新しい広がり求めていくということ、その中に含めていくということが今回の特徴である。3つめと言いますか、2.5ぐらいですが、図書館だけでなく公民館も管理運営していくので、公民館の中の部屋の使用料が大きくはないのですが、それを利用者に払っていただく。それを今回の場合は、利用料金制といって、MICがそれを収受するというシステムとした。ですので、頑張ってたくさん来ていただき、たく

さん利用していただければ、その利用料はどんどん業者に入ってくる。そういったインセンティブと呼んでいるが、お客さんに来ていただける、みんなに利用していただけるような誘因というものをそこに仕組みとして仕組んで、今回は入れてある。そういう意味では、そこは今までの定額的な利潤を渡すというよりも、歩合制というかそういうものもある。その中で企業努力をしていただく、そういうものがある。3つの理由によって、今回はしっかりとサービスがなされていくというように思っている。ただこれは、ただ単に放っておいてそのようになっていくかということそうでもない。利潤というものと経費というものの狭間の部分が出てくるので、それに加えて我々は、皆さんに任務を担っていただくのだが、いろいろ状況を見守っていかなければいけない。うまく理想的な図書館運営がなされているかという日々の状況は、皆さんにこの後も見守っていただきたい。モニタリングという言葉を使うのだが、我々も一緒になって見守っていく、良くしていくということが今回の中に入っている。儲かるかどうかというと、確実なことは言えない。

意見 儲かる、儲からないというのはどちらでもいい。一般市民はこれくらい素朴な疑問を持っている。今日の新聞を見て、PFI どうだこうだと言ってもほとんどの人は何も知らない。そういう中で、企業がやるのだから当然儲かるのでしょ、ということはピンハネするってことか、ピンハネするってことはサービス低下につながるのではないか、というのがすごく素朴な一般市民の疑問である。

→ いろいろな要素が入っていて、それを説明するのは長い時間と資料が必要となるが、基本的なところは先ほど申し上げた大まかに、今までなかったことかということ、民間委託はあった。それと同じである。さらにそれに建物の修繕というものもやっていくということも中に含まれているので、業者の中では最初の利潤の確保がある。さらに言えば、インセンティブというか使用料が入ってくる。だからもっとがんばる、みなさんに来ていただくということが、部屋の使用料として入ってくるので、さらにいいものになっていく。新しいチャレンジの部分は入ってくる。

意見 そうすると数字は上がっていくと思う。今までいろいろなところでやっても、上がっている。

→ 皆さんのご心配はわかる。業者が入ると儲け主義に走って、結局はサービスの経費が大きくなってしまったり、サービスが低下するのではないか。儲けようとする人件費を削っていかなければいけない。そうすると、図書館の中の応対とかのサービスが低下するのではというご心配になるかと思うが、決してそんなことのないようにしていく。それからひとつ、ホワイトウェブ21は民間委託している。入ってくる料金は業者に入る。そうすると、とても理想的で、サービス向上に企業努力というものがそこにインセンティブとして発生する。あそこはお陰さまで、我々が公共でやっていたころよりも、圧倒的な利用者人数の伸びがある。それは、我々の努力が足りなかったというものもあるのかもしれないが、実はそれだけではなく、それ以外に民間の考え、アイデア、チャレンジ、経営感覚といったものがそこではうまく出やすいということがあった。これはほかの市町村でもなされているわけである。安城の図書館は、まさにPFIで画期的な今までの公立図書館とは違う次元の展開がされている。

質問 安城の図書館はいいのか。

→ たくさんのお客さんは来ている。ああいった図書館がはたしていいのか、公的な使命というものをおろそかにしていいのか、という議論はあるが、しかしながら、楽しい図書館とか、利用人数が増えているというのは良かれと感じているのではないかと、外からではあるが思っている。ツタヤ図書館というのは議論賛否両論あるが、ただそこにたぐさんのお客さんが行くというのは、何かしらの魅力というものがあるのだろうとは思う。

意見 ツタヤ図書館のマイナス面もいくつか聞いてはいる。それをふまえて、13年間で、情報を公開しながらやっていかないと、心配ばかりしていてもいけない。

→ そのとおりである。

質問 安城でも、あの中で食べていたり、昼寝したりしている。地の利点で場所がいいが本が貧弱ではないかなと思う。一つのアイディアではある。

学びの館の司書とか学芸員は6人とか2人とか聞いたが、開館時間が10時間で1週間で1回休むだけだと、司書が2人ぐらいはいるということか。

→ 全体で働く人数は12人おり、基本的にその日にいるのは6人になっている。その内司書が何人いるかという、その日のシフトにもよるが。一人は絶対いる。ただ、学芸員は2人なので、ちょっと無理かと思う。

質問 ボランティアの立場で学びの館に一番関係しているので、会議資料を読んだときに4業務計画(2)業務内容の中で、おはなし会をやったり、本をすすめていったりという文面が見当たらず、(4)利用促進計画の中に関係していくのかなと思った。先ほど説明の中で条例に基づきと言われたので、ここにはそういう文面が書いてなくても、おはなし会をしたり、司書は本をすすめたりしてくれるのかなと思うがどうか。

→ これは概要版であり3館をまとめたものである。もともとはもう少しページ数の多いもので、個々の単年度の計画書、仕様書というものが完成されていないので、開始されるまでに出来上がり、そこに詳しく書かれている。目標数値とかも変わっていけばいいかなと思う。細かい内容はそちらに盛り込まれている。

事務局 一色学びの館に関しては、分館機能もきっちりやっていくという方針は業者とも確認しているので、今後も図書館協議会で学びの館のことは報告していくので、よろしく願いたい。

質問 全体の長というのはどこにいるのか。包括館責任者の居場所はどこか。誰かが兼務しているとかそういう人ではないのか。

→ 一色町公民館に包括館責任者はいる。

質問 館長(センター長)という人は年中いるわけではないと思うので、副館長という人がいるのか。

→ そうだと思う。

質問 センター長は市の職員なのか。

→ 違います。

質問 これは3館全部やるのか。

→ はい。

質問 6ページにある収支計画というのは、3館全部の管理運営者がこれだけでやるということか。学びの館だけではないということか。

→ はい。学びの館に関しては、3館の包括管理運営となっていく。

質問 住民票をもらったりということも入るのか。

→ 一色支所の機能は市のものである。ただ場所がそこに同居しているというだけである。

意見 市民の多くはこれくらいの知識だと思う。こういうことなら、儲けが出ることはわかる。

→ PRが下手で申し訳ない。

(4) 利用者アンケートの結果について

生田主任主査より、利用者アンケートの結果について報告。

意見 映写会について、知っているが利用したことなし、という数が多い。DVDは新しいものを入れていくと言われたので、そういう新しいものを映写会でやっていただけることを期待している。

→ 図書館の映写会で上映できるDVDは著作権があり、図書館で持っているDVDすべてが映写会で使えるわけではない。このDVDは館外貸出しはできるが映写会では使えないとか、これは映写会も館外貸出しもできるといったような制限があるため、新しく入ったDVDがすべて映写会で使えるわけではない。ただ、担当はそのあたりも考慮して選定してはいる。

意見 映写会は古いものばかりなので集まらないと思う。

(5) その他

今井館長より、提案事項。

○議題２でも説明をしたが、平成３０年１１月に図書館情報システムの更新を予定している。業者の準備期間もあり、５月末までに業者を選定する必要がある。それには４月早々には選定委員会を開催しなければならない。前回の選定委員会にはこの会の会長、副会長に入っていたが、今回は平成３０年４月３０日までという任期を考慮するとこのお二人にお願いすることが難しく、また、今から選定委員を公募していくことは日程的にも難しいということと、図書館としては行政以外の方にも選定委員に加わっていただきたいと考えているため、どなたかこの会の中でご推薦をいただけたらと考えている。

意見 若くて、パソコンにも長けている山下委員を推薦したいがいかがか。

→ 満場一致で了承いただけた、山下委員にもお受けいただけた。

- ・部長あいさつ、後閉会。